

University Academic Repository

ラーニングコモンズ設置前後の大学図書館の利用実態：嘉悦大学における事例調査

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2016-11-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 山田, かおり メールアドレス: 所属:
URL	https://kaetsu.repo.nii.ac.jp/records/354

研究ノート

ラーニングコモンズ設置前後の大学図書館の利用実態

～ 嘉悦大学における事例調査 ～

An Utilization Study in Academic Library during Providing Learning Commons:
Case Study of Kaetsu University Library

山田 かおり
Kaori YAMADA

<要約>

本研究は、ラーニングコモンズを含めた図書館全体が学習環境としてどのように機能しているかを明らかにすることを目的とする。ラーニングコモンズ設置前後における図書館の利用行動の変化を明らかにするために、嘉悦大学図書館において、ラーニングコモンズの設置前と設置後に観察調査を実施した。結果として、ラーニングコモンズ設置前後において、来館者数、利用場所、利用行動ともに、大きな変化はなかった。しかし、ラーニングコモンズ設置前から図書館をグループで利用する利用者が存在し、ラーニングコモンズ設置後は、グループでの利用者や話し合いをする利用者の多くは、ラーニングコモンズを利用していることが分かった。また、個人の利用者の多くは従来どおりの閲覧席で学習していることが明らかになった。

<キーワード>

ラーニングコモンズ、学習環境、利用行動、大学図書館、嘉悦大学

1 はじめに

ラーニングコモンズは“複数の学生が集まって、電子情報も印刷物も含めた様々な情報資源から得られる情報を用いて議論を進めていく学習スタイルを可能にする「場」を提供するもの”¹⁾とされている。日本においては、2000年代よりラーニングコモンズの設置が見られ、2008年ごろから増加を示している²⁾。文部科学省の調査『大学における教育内容等の改革状況について（平成25年度）』の結果では、ラーニングコモンズの整備・活用を行っている大学数は389大学（51%）となっており³⁾、空間としての整備が進んできている。

しかし、ラーニングコモンズについては、識者や図書館関係者による報告や指摘、事例報

告などを除いて、ラーニングコモンズを巡る本質的な議論や、ラーニングコモンズにおける目的や意義に関する理解が共有されているとは必ずしも言えない状況であるとして、2015年に国立大学図書館協会教育学習支援検討特別委員会より『ラーニング・コモンズ (LC) の在り方 (共通理解のために)』が提示された。この提言では、ラーニングコモンズの定義、目的、支援内容、構成要素等について記載されている。ラーニングコモンズは、施設 (場所)、コンテンツ (情報)、サポートの3つから構成されるべきであるとし、それぞれについて、具体的な構成要素 (必要なスペースや什器、資料・電子リソース、人的リソース等) が挙げられている。この文書は、図書館におけるラーニングコモンズの整備や人的支援、教育過程への関与等について議論の一助となることを目指している⁴⁾。現在はラーニングコモンズにおける物的支援・人的支援の在り方を模索している段階といえる。

そこで、今後のラーニングコモンズの整備や、サービス内容の検討や拡充をしていくために、利用実態を把握していく必要がある。ラーニングコモンズの利用実態を把握する方法としては観察調査法が多く見られる。立石はラーニングコモンズを含む図書館の利用実態調査において観察調査を選択した理由として、従来図書館を利用する利用者行動の研究に用いられてきた手法は、質問紙調査によって来館頻度や滞在時間・利用目的などを尋ねることで利用行動を把握するものであったが、質問紙調査では、回答者が必ずしも質問の意図を理解して回答できるとは限らず、また本当のことを回答しない可能性が高くなることが指摘されていることを挙げている⁵⁾。そこで、利用者が図書館の中で何をしているのかを把握するには、結果が利用者の意識に左右される恐れのある質問紙調査以外の調査方法を検討する必要があるとして、立石は利用行動の実態をできる限り正確に把握するために観察調査を用いた。この調査を始めとして、ラーニングコモンズの利用実態調査では観察調査が多く用いられるようになった。観察調査の範囲としては、ラーニングコモンズを含めた図書館全体を調査したものと、ラーニングコモンズのみを調査したものがある。

ラーニングコモンズのみを対象とした調査は、津村の鳥取大学附属図書館のラーニングコモンズを調査したものがある。ラーニングコモンズは、まずデスクトップパソコンを使いたい学生、次いでグループ利用をしたい学生に使われていた。なお、グループ利用という言葉からは学生同士によるディスカッションやプレゼンといった形式の利用がイメージされがちだが、実際には数名でかたまっで各々が個人学習をしながら、必要に応じて会話する形態での利用が多かったとしている⁶⁾。三根の三重大学における調査では、グループ利用の件数が個人利用を上回っており、個人利用とグループ利用の比率は3:7であった。滞在場所はグループ学習エリア、PCステーション、ソーシャルエリアの順に多く、利用行動は話し合い・雑談、勉強、PCでレポート作成の順に多かった。多くの利用者が学習目的でラーニングコモンズを利用しているが、常に25~45%の非学習目的の利用者が存在していた⁷⁾。野中らはラーニングコモンズ導入期における学生の空間利用状況について、兵庫教育大学図書館ラーニングコモンズPAOを調査した。パソコンに関するエリアと協働学習エリアの利用人数が多く、

セミナーエリアは特定の時間しか利用が見られず、オープンから4か月程度ではグループ学習の場として利用者に意識して活用させていくのは難しいとしている⁸⁾。金子は島根大学のラーニングコモンズを調査した。ラーニングコモンズ利用者の70%はグループであり、最も多い利用者の行動は何か書いているで、次に多いのが話し合いであった⁹⁾。これらの観察調査の結果を見ると、どのラーニングコモンズにおいてもグループ学習やPCエリアの利用が多く見られる。

一方、ラーニングコモンズを含む図書館全体を調査したものは少ない。立石はラーニングコモンズ的な機能を持つ横浜国立大学附属図書館の中央図書館を対象に調査した。利用者の行動については、勉強が半数近くを占めており、飲食が12.8%、話し合い・雑談が11.8%であった。個人利用者はほとんどが閲覧スペースを利用し、グループ利用者はリラクゼーションスペースを最も利用していた¹⁰⁾。中井らはラーニングコモンズ的な機能を持つ図書館3館と、持たない図書館1館を対象に調査を行った。着座行為率がどの館も平均80~90%と高く、個人利用者はキャレル席やパソコン席など静かな空間を選び、グループ利用者は会話ができる音を出してもよい空間を選択していた。個人利用者は勉強での利用が多く、またパソコンを設置している館ではパソコンの利用が多かった。グループ利用者は会話での利用が多かった。個人とグループでの利用人数の割合は、個人での利用が60~96%となっており、館によってかなりばらつきがあるが個人での利用が主体であった¹¹⁾。

学習の場としてラーニングコモンズが注目されているが、ラーニングコモンズの設置が増加する前から、大学図書館は学習の場として極めて重要な役割を果たしている¹²⁾。ラーニングコモンズの利用実態を把握するには、ラーニングコモンズを含む図書館全体での利用実態を把握する必要があるのではないか。図書館全体の調査では、個人での利用が多くみられるが、ラーニングコモンズを対象とした調査ではグループでの利用が主である。ラーニングコモンズを設置したことによって、グループでの利用が増加したと思われるが、定かではない。

そこで、本調査ではラーニングコモンズの設置前と設置後の両方に図書館全体において観察調査を実施し、利用実態を比較することを試みた。本稿は、ラーニングコモンズの設置前後でどのような利用の変化があったかを明らかにすることを目的とする。また、ラーニングコモンズと閲覧スペースの利用行動の違い、グループと個人の利用人数や利用行動の違いにも注目し、ラーニングコモンズを含めた図書館全体が学習環境としてどのように機能しているのかを明らかにする。質問紙調査では、入館者全員の調査を実施することが難しく、また利用場所や滞在時間、利用人数、図書館で行う複数の利用行動（ノートPC利用後に図書の貸出・返却、雑談しながら本で勉強等）、回答しにくい行動（昼寝、ゲーム、雑談等）について細かい回答を得ることが難しいと思われるため、本調査では観察調査を用いることとした。

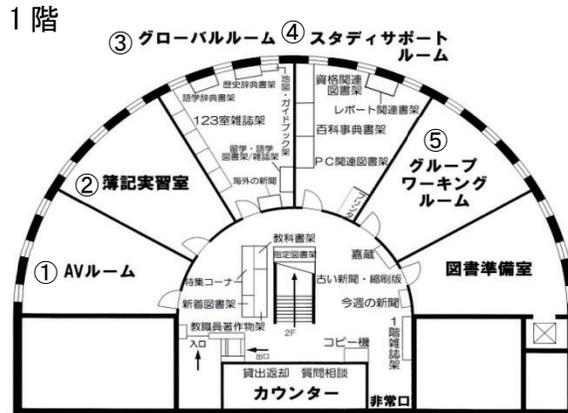
2 調査方法

2.1 調査対象

本調査では、ラーニングcommonsの設置前と設置後に観察調査を行った。調査対象は、嘉悦大学情報メディアセンター図書館とした。嘉悦大学は東京都小平市にある、社会科学系の大学である。経営経済学部とビジネス創造学部の2学部と大学院のビジネス創造研究科を設置しており、収容定員1,600名程度の小規模な大学である。嘉悦女子短期大学から嘉悦大学に改組した2001年から新生のノートPCの購入を義務化しており、学生は一人1台ノートPCを持っている。また大学内全域で無線LANが利用でき、キャンパスのどこでも学習できる空間となっている。2008年にはアクティブラーニング教室を整備し、少人数のコラボレーションを重視した授業が実施されている¹³⁾。ノートPCを使用した学習や、グループでの学習空間が比較的整っている環境の中、嘉悦大学情報メディアセンター図書館では、2015年3月に図書館の一部にラーニングcommonsを設置した。図書館外のラウンジ等のオープンスペースはにぎやかな空間で周りにいるいろいろな人と話をしながら学習することに向いている。図書館に設置したラーニングcommonsは、周りは静かであるが、その空間では落ち着いてディスカッションやグループ学習ができることを目指した。また産業界・地域の方々と学生・教職員のコミュニケーションの場として機能するよう、会議、商談、ミニセミナーができる空間を設置した。図書館は3階建てで、1階にラーニングcommons、2階に閲覧席と開架書架、3階に開架書架が設置されており、本調査では1階と2階を観察調査の対象とした。3階は書架のみなので調査対象外とした。調査対象としたラーニングcommons設置前と設置後のフロアについて説明する。

2.1.1 ラーニングcommons設置前

1階は入口を入るとすぐに展示コーナーや新着図書架が設置されている。右手にカウンターがあり、その奥にはOPAC、雑誌、新聞、新聞閲覧席などが設置されている。フロアは5つの小部屋に囲まれており、小部屋はそれぞれ違った機能を持っている(図1)。



出典：嘉悦大学情報メディアセンターフロアマップ (<http://imc.kaetsu.ac.jp/guide/floors.html>) を元で作成

図1 図書館1階フロアマップ（ラーニングcommons設置前）

①AV ルーム

ビデオテープやDVDなどの視聴覚資料を視聴できるスペース。視聴デッキが3台設置されており、1人または2人で視聴できる。

②簿記実習室

主に簿記の勉強をするスペース。週に2、3回程度、簿記検定2級以上の資格を取得した学生による会計チューターが配備され、検定試験用の指導を行っている。

③グローバルルーム

語学や留学関連の図書や雑誌、地図やガイドブックなどが配備されている。週2回程度、日本語科目を担当する教員が留学生の学習サポートを行っている。

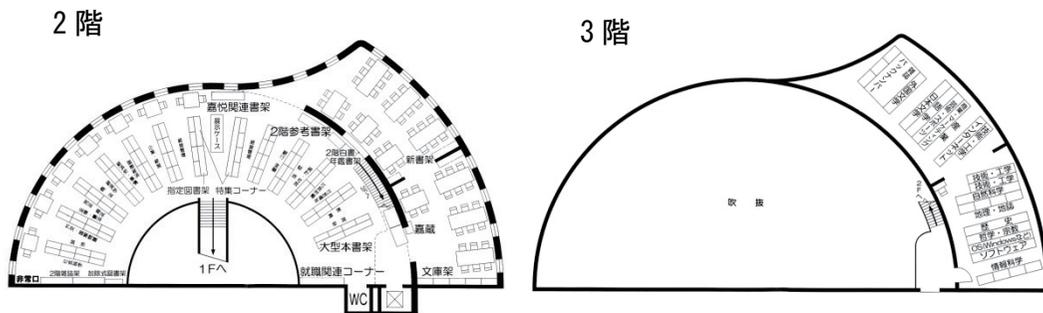
④スタディサポートルーム

デスクトップPC3台とプリンターが設置されている。プリンターは持ち込みのノートPCからでも印刷が可能である。資格取得のための参考書やレポートの書き方、PCの操作についての図書が配備されている。

⑤グループワーキングルーム

ラーニングcommons設置前の館内で唯一ディスカッションができる場所である。複数人数で予約すれば貸し切りができる。

2階は、半円状に書架が配備され、窓際に個人キャレル席、書架の奥のフロアにグループ席が設置されている。グループ席はデスクトップパネルで仕切られており、向かい合う人と目が合わないようになっている。3階は図書と雑誌のバックナンバーが配架された書架がある（図2）。

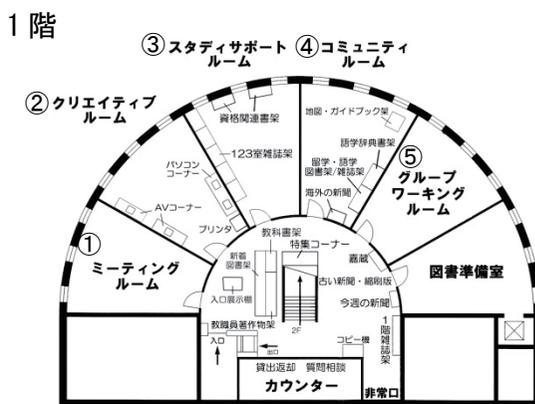


出典：図1に同じ

図2 図書館2階・3階フロアマップ

2.1.2 ラーニングコモンズ設置後

1階の5つの小部屋を改装し、それぞれの部屋の機能を変更した。また、5部屋すべてにおいて会話やディスカッションを可能とした。改装前も、学習支援的な機能を持っていたが、会話を可能にすることにより、正式にラーニングコモンズとしてオープンした(図3)。5部屋以外の設備に変更はないので、ここでは1階の5部屋のみの説明をする。



出典：図1に同じ

図3 図書館1階フロアマップ(ラーニングコモンズ設置後)

①ミーティングルーム

4人用および6人用のボックス席を設置した。可動式のモニターが配備されており、少人数での打ち合わせやディスカッションに適したスペースとなっている。

②クリエイティブルーム

デスクトップPC3台、プリンター、視聴覚資料の視聴ブースが2台分設置されている。

③スタディサポートルーム

可動式の1人用の机と椅子、ディスプレイなどが設置されている。1人での作業や少人数

のグループワークに適しており、ミニセミナーも実施可能である。資格関連の図書も配備しており、改装前の簿記実習室にいた会計チューターが週2回程度、簿記検定の資格取得支援を行う。

④コミュニティルーム

可動式の正方形の大きめのテーブルと椅子が配備されている。電子黒板機能内蔵のプロジェクターが配備され、また2面の壁全面がホワイトボードになっており、グループワークが実施しやすいスペースとなっている。教員による留学生の学習サポートをこの部屋で実施している。

⑤グループワーキングルーム

改装前と名称は一緒であるが、可動式の半円形のテーブルに入れ替えを行った。コミュニティルームと同様2面の壁がホワイトボードになっており、モニターも設置されているのでグループワークが実施しやすい。また5名以上であれば貸し切りでの利用も可能であり、プレゼンテーションの練習等も可能である。

2.2 調査方法

調査期間は、ラーニングコモンズ設置前は2015年1月13日(火)、15日(木)、19日(月)の3日間、設置後は2015年7月9日(木)、13日(月)、14日(火)の3日間とした。過去の利用統計より火曜日と木曜日は比較的利用が多く、月曜日は少ないので、両方の曜日を含むようにした。また最後の1日は定期試験の時間割発表後となっている。時間は、各日9:00～10:00、12:30～13:30、17:00～18:00の3回、調査員は1フロアに各1名ずつ合計2名による観察調査を行った。入館した利用者の行動を、あらかじめ調査項目が設定されたチェックリストに記載した(図4)。チェックリストの調査項目は、立石¹⁴⁾の調査の枠組みを参考に作成し、属性(1人、グループ等)、利用時間(入館時間と退館時間)、作業内容(利用場所、利用物品、行動内容等)とした。また、利用者の利用場所や動きを調査するため、フロアマップに導線を書き込んだ(図5)。調査員は、図書館の設備を理解している情報メディアセンターの職員と学生スタッフとし、利用者には事前に観察調査を行うことを掲示にてお知らせした。

判断が難しく定かな数値ではない。時間帯別の利用者数は、ラーニングcommons設置前、設置後ともに昼（12:30～13:30）の時間が一番多く、次に夕方（17:00～18:00）が多く、朝（9:00～10:00）の利用は少なかった。ラーニングcommons設置後は、夕方（17:00～18:00）の利用設置前と比較して増加した（図6）。

表1 ラーニングcommons設置前と設置後の入館者数の比較

【ラーニングcommons設置前】		【ラーニングcommons設置後】	
調査日	入館者数	調査日	入館者数
1月13日（火）	296	7月9日（木）	274
1月15日（木）	289	7月13日（月）	269
1月19日（月）	258	7月14日（火）	323
合計	843	合計	866

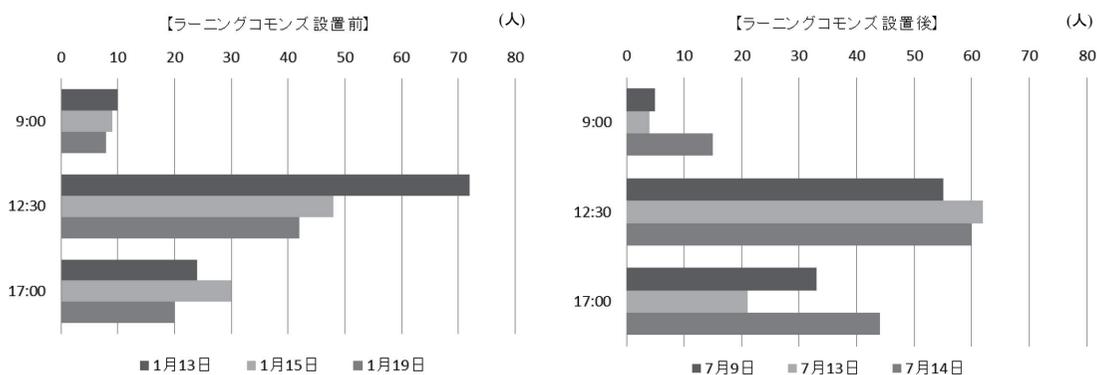


図6 時間帯別利用者数

3.1.1 利用場所

ラーニングcommons設置前後の利用場所を閲覧スペース、書架、機器、その他のスペースに分けて集計したものが表2である。調査中に移動する利用者がいたので、観察者数より人数が多くなっている。ラーニングcommons設置前、設置後ともに、閲覧スペースの利用が最も多くそれぞれ65%、74%であった。ラーニングcommons設置後のラーニングcommonsの利用者は全体の23%であった。閲覧スペースのみの利用者を見ると、ラーニングcommons利用者と閲覧席の利用者の割合は、3:7であり、従来からある閲覧席を利用する者のほうが多かった。

表2 ラーニングcommons設置前と設置後の利用場所の比較

【ラーニングcommons設置前】				【ラーニングcommons設置後】									
場所		人数	割合	場所		人数	割合						
閲覧スペース	1F・AVルーム	9	198	65%	閲覧スペース	1F・ミーティングルーム	33	265	74%	82	23%		
	1F・簿記実習室	6				1F・クリエイティブルーム	23						
	1F・グローバルレーム	22				1F・スタディサポートルーム	10						
	1F・スタディサポートルーム	32				1F・コミュニティルーム	9						
	1F・グループワーキングルーム	0				1F・グループワーキングルーム	7						
	1F・新聞閲覧席	9				1F・新聞閲覧席	8						
	2F・閲覧席（個人キャレラ席）	44				2F・閲覧席（個人キャレラ席）	54						
	2F・閲覧席（グループ席）	76				2F・閲覧席（グループ席）	119						
2F・その他の席	0	2F・その他の席	2	183	51%								
書架スペース	1F・書架	10	21			7%	書架スペース	1F・書架	13	34	10%	34	10%
	1F・グローバルレーム内雑誌架	0						1F・スタディサポートルーム内雑誌架	1				
	1F・カウンター脇雑誌架	1						1F・カウンター脇雑誌架	5				
	1F・新聞架	1						1F・新聞架	3				
	2F・書架	9						2F・書架	12				
	2F・洋雑誌架	0						2F・洋雑誌架	0				
機器スペース	1F・コピー機	21	48			16%	機器スペース	1F・コピー機	8	28	8%	28	8%
	1F・OPAC	15		1F・OPAC	10								
	1F・プリンタ	10		1F・プリンタ	4								
	2F・OPAC	0		2F・OPAC	2								
	2F・プリンタ	2		2F・プリンタ	4								
その他	1F・カウンター	26	36	12%	その他	1F・カウンター	15	29	8%	29	8%		
	1F・その他フロア	3				1F・その他フロア	2						
	2F・その他フロア	3				2F・その他フロア	6						
	3Fへ移動	4				3Fへ移動	6						
合計		303	303	100%	合計		356	356	100%	356	100%		

注1) 調査中に移動した利用者がいるため、観察者数より合計人数が多くなっている。
 注2) 割合は人数を合計人数で割ったもの。

3.1.2 利用行動

ラーニングcommons設置前後の利用行動を集計したものが表3である。複数の行動をする利用者がいたので、観察者数より人数が多くなっている。利用者の行動を多い順に並べると、持ち込みノートPCでの作業、スマートフォン・携帯電話の使用、本などでの勉強、話し合い・雑談となり、ラーニングcommons設置前と設置後での順位の違いはなく、割合もほぼ同じであった。学生全員がノートPCを購入していることから、ラーニングcommons設置前後ともに、本などでの勉強よりも、持ち込みノートPCでの作業が多く、ノートPCを使用した学習が定着していることがわかる。またノートPC用に、閲覧机に電源コンセントを設置していることから、携帯電話を充電する利用者が多く見られ、学習の合間にスマートフォンや携帯電話を確認する利用者が多かった。ラーニングcommons設置後に、図書館にて話し合い・雑談をする利用者の割合が著しく増加するという事はなかった。

表3 ラーニングコモンズ設置前と設置後の利用行動の比較

【ラーニングコモンズ設置前】 (人) n=263			【ラーニングコモンズ設置後】 (人) n=299		
利用行動内容	人数	割合	利用行動内容	人数	割合
PC作業(ノートPC)	85	32%	PC作業(ノートPC)	131	44%
PC作業(備え付け)	14	5%	PC作業(備え付け)	8	3%
OPAC利用	15	6%	OPAC利用	7	2%
本などで勉強	48	18%	本などで勉強	45	15%
読書(本)	7	3%	読書(本)	18	6%
読書(雑誌)	4	2%	読書(雑誌)	6	2%
新聞閲覧	1	0%	新聞閲覧	3	1%
スマホ・携帯電話使用	66	25%	スマホ・携帯電話利用	81	27%
書架で資料探し	18	7%	書架で資料探し	22	7%
資料の貸出・返却	14	5%	資料の貸出・返却	11	4%
視聴覚資料の利用	1	0%	視聴覚資料の利用	1	0%
コピー機を使用	17	6%	コピー機を使用	8	3%
プリンタで印刷	12	5%	プリンタで印刷	10	3%
カウンターで相談	11	4%	カウンターで相談	4	1%
話し合い・雑談	35	13%	話し合い・雑談	43	14%
寝ている	15	6%	寝ている	27	9%
その他の作業	23	9%	その他の作業	7	2%

注) 割合は人数を観察者数で割ったもの

3.2 ラーニングコモンズでの利用行動の特徴

3.2.1 ラーニングコモンズと閲覧席の利用行動の違い

ラーニングコモンズ設置後の従来型の閲覧席の利用者とラーニングコモンズの利用者の行動をまとめたものが表4である。利用者の行動を多い順に並べると、閲覧席の利用者は、持ち込みノート PC での作業、スマートフォン・携帯電話の使用、本などでの勉強となった。ラーニングコモンズの利用者を見ると、話し合い・雑談が最も多く、次いで持ち込みノート PC での作業、スマートフォン・携帯電話の使用、備え付け PC での作業となった。落ち着いてノート PC での作業や本での勉強を行う利用者は従来型の閲覧席を選択し、話し合い・雑談などを行う利用者はラーニングコモンズを選択している。

表4 ラーニングcommonsと閲覧席での利用行動の違い

	n=182		n=74		n=256	
	閲覧席		ラーニングcommons		合計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
PC作業(ノートPC)	96	53%	32	43%	128	50%
PC作業(備え付け)	0	0%	8	11%	8	3%
OPAC利用	2	1%	1	1%	3	1%
本などで勉強	39	21%	5	7%	44	17%
読書(本)	12	7%	5	7%	17	7%
読書(雑誌)	2	1%	3	4%	5	2%
新聞閲覧	0	0%	2	3%	2	1%
スマホ・携帯電話利用	52	29%	27	36%	79	31%
書架で資料探し	2	1%	3	4%	5	2%
資料の貸出・返却	0	0%	1	1%	1	0%
視聴覚資料の利用	0	0%	1	1%	1	0%
コピー機を使用	0	0%	4	5%	4	2%
プリンタで印刷	4	2%	5	7%	9	4%
カウンターで相談	0	0%	3	4%	3	1%
話し合い・雑談	4	2%	39	53%	43	17%
寝ている	20	11%	7	9%	27	11%
その他の作業	2	1%	4	5%	6	2%

注1) 閲覧スペースを利用した利用者のみを集計

注2) 割合は閲覧席、ラーニングcommons、両方の合計の利用人数から人数を割ったもの

3.2.2 個人およびグループ利用の違い

本調査では1人での利用を個人利用、2人以上での利用をグループ利用とした。ラーニングcommons設置前の閲覧スペースの個人利用とグループ利用の割合は表5のとおり8:2であった。ラーニングcommons設置後については、閲覧席とラーニングcommonsに分けて集計した(表6)。閲覧スペース全体の個人利用とグループ利用の割合は7:3となり、ラーニングcommons設置前よりグループ利用が約1割増加した。閲覧席では9割が個人利用であったが、ラーニングcommonsではグループでの利用が多く、個人利用とグループ利用の割合は3:7であった。ラーニングcommonsを設置したことにより、グループ利用者がやや増加し、グループ利用の際はラーニングcommonsを利用する傾向が見られた。

表5 閲覧スペースでの個人とグループの利用人数(ラーニングcommons設置前)

	人数	割合
個人	155	80%
グループ	38	20%
合計	193	100%

表 6 閲覧スペースでの個人とグループの利用人数（ラーニングコモンズ設置後）
(人)

	閲覧席		ラーニングコモンズ		合計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
個人	164	90%	23	31%	187	73%
グループ	18	10%	51	69%	69	27%
合計	182	100%	74	100%	256	100%

3.2.3 話し合い・雑談をする場所

ラーニングコモンズ設置前に、話し合いや雑談をしている場所を調査したところ、唯一会話が可能スペースであるグループワーキングルームの利用はなく、話し合い・雑談をする場所は各所に分散していた。グローバルルームは、週2回留学生サポートの教員が学習相談を行っていたこともあり、会話をしてもよい場所であるという認識を持つ利用者が多いため、話し合い・雑談をしている人数が多いと思われる。ラーニングコモンズ設置後は、話し合い・雑談している利用者はほぼラーニングコモンズを利用していた（表7）。

表 7 話し合い・雑談に利用する場所

【ラーニングコモンズ設置前】			【ラーニングコモンズ設置後】			(人)	
場所		人数	場所		人数		
閲覧席	1F・AVJルーム	0	ラーニングコモンズ	1F・ミーティングルーム	14		
	1F・簿記実習室	0		1F・クリエイティブルーム	10		
	1F・グローバルルーム	13		1F・スタディサポートルーム	6		
	1F・スタディサポートルーム	2		1F・コミュニティルーム	6		
	1F・グループワーキングルーム	0		1F・グループワーキングルーム	5		
閲覧席	1F・新聞閲覧席	4	閲覧席	1F・新聞閲覧席	0		
	2F・閲覧席（個人キャレール席）	4		2F・閲覧席（個人キャレール席）	0		
	2F・閲覧席（グループ席）	6		2F・閲覧席（グループ席）	4		
その他	1F・書架	3	その他	1F・書架	0		
	1F・コピー機	7		1F・コピー機	0		
合計		39	合計		45		

注) 同一人物が複数の場所で話し合い・雑談をしていたため、表3の話し合い・雑談の人数とは一致しない。

3.2.4 滞在時間

ラーニングコモンズ設置前後の滞在時間を場所別に集計したものが図7である。時間は10分単位にまとめた。各回の観察時間が60分間なので、60分以上の滞在時間は計測できない。「書架・その他」には書架、カウンター、OPAC、コピー機、プリンター等が含まれる。ラーニングコモンズ設置前は、10分までの利用が多く、次に51～60分の利用が多い。ラーニングコモンズ設置後は、51～60分の利用がかなり多い。ラーニングコモンズ設置前後どちら

においても、書架・その他の滞在時間は短く、図書の貸出・返却やプリンター、コピー機の利用等、短い休み時間の間に用事を済ませている様子が伺える。ラーニングcommons設置後のラーニングcommonsでの滞在時間を見ると、51~60分がやや多いが、特に多い時間はない。閲覧席においては、ラーニングcommons設置前後共に、51~60分が多く、静かなスペースに長時間滞在していることが分かった。

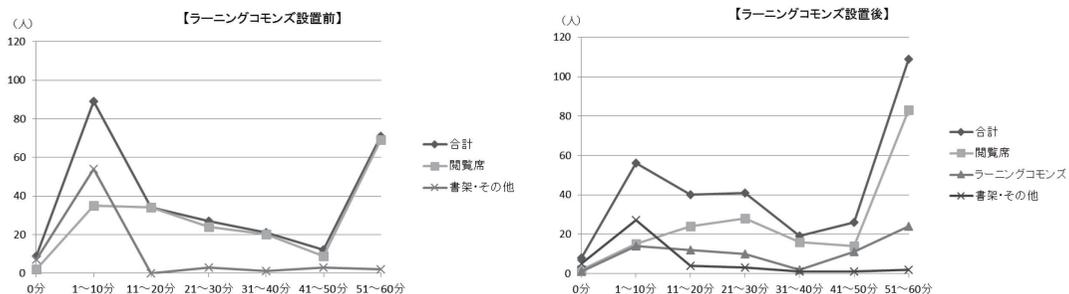


図7 場所別滞在時間

本調査では利用者の館内での行動を見るために、入館者一人ずつの導線を記録した。立ち止まった回数をまとめたものが図8である。ラーニングcommons設置前後で大きな違いは見られず、どちらも最初に滞在した場所から動かない利用者が多かった。またどこにも立ち止まらずに、図書館から出て行く利用者がいることが分かった。前項の滞在時間の調査においても、滞在時間が0分という利用者がラーニングcommons設置前後ともに10人弱おり、待ち合わせなどで館内を回り、すぐに退館する利用者がいることが示されている。

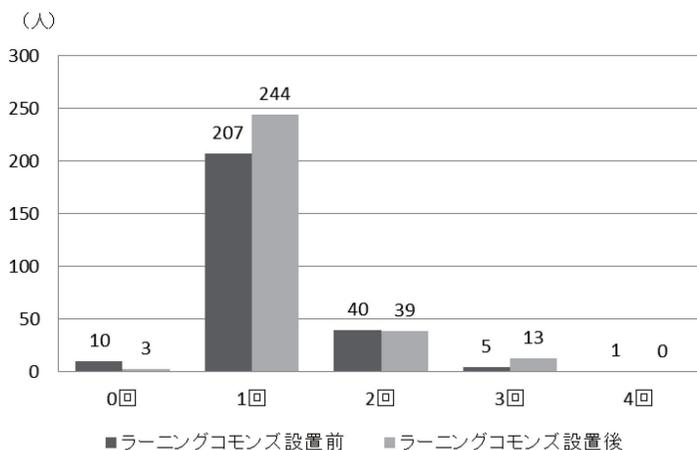


図8 館内での移動回数

4 まとめ

嘉悦大学情報メディアセンター図書館においては、ラーニングコモンズ設置前後において、来館者数、利用場所、利用行動ともに、大きな変化はなかった。閲覧スペースの利用が約70%と大部分を占めており、滞在時間が長く、移動回数が1回の利用者が多く見られた。ノートPCでの作業や本を使った勉強が多く見られることから、図書館は滞在型の学習の場としての役割を果たしているといえる。

ラーニングコモンズ設置後は、グループでの入館者がやや増加した。図書館利用者全体の個人利用とグループ利用の比率は7:3であるが、ラーニングコモンズ利用者に限定すると、個人利用とグループ利用の比率は3:7となり、グループでの利用が多いことが分かった。図書館以外にグループで学習する場が存在するにも関わらず、ラーニングコモンズ設置前から図書館をグループで利用する利用者が2割程度いた。もともとグループで図書館を利用したいという要望があったと思われる。ラーニングコモンズを設置することにより、従来型の閲覧席では個人での学習が行われ、ラーニングコモンズではグループでの話し合い・雑談や学習が多く行われるという棲み分けができた。ラーニングコモンズ設置後のラーニングコモンズの利用を見ると、話し合い・雑談での利用が多く見られた。また、話し合い・雑談する利用者のほとんどは、会話の場所としてラーニングコモンズを選択している。話し合い・雑談の場所は、ラーニングコモンズ設置前には館内の様々な場所に分散していたが、ラーニングコモンズ設置後は、ラーニングコモンズに集まった。

先行文献では、ラーニングコモンズでは、グループ学習やPCエリアの利用が多く見られたが、嘉悦大学においては、学生全員がノートPCを持っており、また館内のPCエリアにデスクトップPCが3台しか設置されていないこともあり、デスクトップPCの利用は多くない。また、ラーニングコモンズでは、話し合い・雑談の次に、持ち込みノートPCの利用が多く、津村¹⁵⁾の先行研究と同様、複数名で一緒にノートPCを利用しながらそれぞれの勉強をし、必要に応じて会話をする様子が多く見られた。

本調査は、ラーニングコモンズ設置から3か月後というかなり早い段階での調査であったにも関わらず、利用者はラーニングコモンズをグループでの利用や話し合いの場所として認識していた。グループでの入館者もやや増加した。しかし、実際の話し合い・雑談の内容は観察調査では把握することができない。また、ラーニングコモンズ設置の際に想定しているホワイトボードを使用したグループワークやプレゼンテーションの練習等の実施については把握できなかった。ホワイトボードやプロジェクターの使用は見られなかったが、グループワークやプレゼンテーションの練習等が行われなかったかどうかは定かではない。本研究においては、観察調査法により、ラーニングコモンズ設置前後の図書館の利用実態を明らかにした。しかし、観察調査法では、利用者の利用行動の詳細や、図書館の閲覧席やラーニングコモンズを学習の場として選択した理由は分からない。また、ラーニングコモンズという場を設置したことによるグループでの学習方法や話し合いの内容の変化等、学習の質的变化に

については調査できない。今後、質問紙調査等を実施し、利用者の利用行動の詳細や要望を把握した上で、ラーニングコモンズの評価や、図書館およびラーニングコモンズの整備を行う必要があるだろう。

謝辞

調査にご協力いただいた嘉悦大学情報メディアセンター職員の皆様、および学生スタッフの皆様に心より感謝いたします。

引用文献

- 1) 文部科学省科学技術・学術審議会学術分科会研究環境基盤部会学術情報基盤作業部 (2010)『大学図書館の整備について (審議のまとめ) : 変革する大学にあつて求められる大学図書館像』
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/1301602.htm (2016年5月7日閲覧)
- 2) 加藤信哉、小山憲司編訳 (2012)『ラーニング・コモンズ : 大学図書館の新しいかたち』勁草書房、pp.203-205
- 3) 文部科学省 (2015)『大学における教育内容等の改革状況について (平成25年度)』
http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/daigaku/04052801/1361916.htm (2016年5月7日閲覧)
- 4) 国立大学図書館協会教育学習支援検討特別委員会 (2015)『ラーニング・コモンズの在り方に関する提言 : 実践事例普遍化小委員会報告』
<http://www.janul.jp/j/projects/sftl/sftl201503a.pdf> (2016年5月7日閲覧)
- 5) 立石亜紀子 (2012)「大学図書館における「場所としての図書館」の利用実態」、『Library and information science』第67巻、pp.39-61
- 6) 津村光洋 (2011)「鳥取大学附属図書館のラーニング・コモンズ」、『鳥取大学教育研究論集』第1号、pp.97-102
- 7) 三根慎二 (2012)「ラーニング・コモンズはどのように利用されているか : 三重大学における事例調査」、『三田図書館・情報学会研究大会発表論文集』、pp.25-28
- 8) 野中陽一朗、横山香、中間玲子他 (2014)「ラーニングコモンズ導入期における学生の空間利用状況 : 定点観測からの探索的検討」、『兵庫教育大学研究紀要』第44巻、pp.207-218
- 9) 金子尚登 (2015)「ラーニングコモンズ : 利用実態調査からみる利用傾向」、『湊雲 : 島根大学附属図書館報』第17巻、pp.55-62
- 10) 前掲5)
- 11) 中井孝幸、蔣逸凡 (2014)「大学図書館における学習環境と利用者の図書館像 : 「場」としての大学図書館の施設計画に関する研究 (その1)」、『日本建築学会計画系論文集』第79巻第705号、pp.2347-2356
- 12) 文部科学省学術審議会学術情報資料分科会学術情報部会 (1993)『大学図書館機能の強化・高度化の推進について (報告)』
<http://www.janul.jp/j/documents/mext/houkoku.html> (2016年5月7日閲覧)
- 13) 遠山緑生、田尻慎太郎、岩月基洋他 (2015)「社会科学系大学における ICT リテラシー教育の再生 : アクティブラーニングと BYOD・クラウドの活用」、『デジタルプラクティス』第6巻第2号、pp.129-138
- 14) 前掲5)
- 15) 前掲6)

(平成28年5月9日受付、平成28年7月7日再受付)